

## 令和7年度 第3回神戸市就学・教育支援委員会

### 議事要旨

- 1 開催日時 令和7年12月11日（木）15時00分～17時00分
- 2 開催場所 神戸市総合教育センター701号室
- 3 出席委員 石倉委員長、中尾委員、小林委員、上原委員、高田委員、中西委員、河崎委員、関口委員、西田委員、二宮委員  
オブザーバー 米谷校長、前田校長、三瀬校長、島崎園長
- 4 議事  
「通級指導教室の設置、拡充」（資料1）

### 【通級指導教室の設置、拡充】

#### ●委員長

- ・通級対象になっている子どもの障害種別はどうか。

#### ○事務局

- ・自校通級指導教室の対象は、自閉症、ADHD、情緒障害、LD。

#### ●委員長

- ・ほとんどが発達障害と言われる対象で、難聴や言語障害は少ないということか。

#### ○事務局

- ・自校通級指導教室の対象にしている障害種別が、ADHD、LD、自閉症、情緒障害で、言語障害や難聴については、拠点校通級指導教室（きこえことばの教室）へ通っている。

#### ●委員

- ・自校通級指導教室を増やすのは全く問題ない。
- ・ICTツールを使うのは構わないが、ICTツールの使用について、学会では賛否両論ある。専門性の乏しい人が使うと、自分で考えなくなり、専門性が身につかない。実態の把握をして、それに応じた目標設定、教材、指導案までツールとして出てくるので、教員自身は何をするのかと思う。ICTツールを使うことを求めるのではなく、その使い方の指導をしっかりとしないと、専門性が身につかない。ICTツールを使うのではなく、どのように使わせるのかということが大事である。その方向性について、どのように考えているか。

#### ○事務局

- ・ICTツールを使えばそれでよいというものだと決して思っていない。

- ・自校通級指導教室においては、経験年数が浅い教員が多く、専門性が担保されていないことが課題。今後、令和 18 年度に向けて自校通級指導教室を設置・拡充していく中で、専門性を担保していくことが非常に重要であり、ICT ツールを活用し、児童生徒へのアセスメントや指導・支援において手助けしてもらう。
- ・そこから踏み込んだ児童生徒の特性に応じた支援については、教員が対応していく領域になる。教員の専門性向上については、自校通級指導教室の担当教員に対する研修など、引き続き検討していきたい。

#### ●委員

- ・ICT ツールの研究会に参加したが、使いこなせないことが課題である。使いすぎると、次のステップに行かないという結果が出ている。今後、自校通級指導教室を広げていくのであれば、教員の研修体制を組んで、ICT ツールの使いこなし方や児童生徒の実態把握の視点などを身につけないと、いくら便利なものを使っても、おそらく 10 年後も同じことが起こっているだろう。ICT ツールの利用に際しては、今後のプランをしっかりと立てるべきである。

#### ●委員

- ・今は、急激に自校通級指導教室が増え、教員が困るのは分かるので、ICT ツールを活用すればすごく助かるだろう。神戸市だけではなく、他都市でも ICT ツールを使っており、教育界に浸透してきている。教育でこれを使うこと自体は悪くはない。
- ・ただ、ICT ツールを使うことによって、パターンに入れてしまうことを懸念する。子どもを見立てて、子どもにとって必要な支援をすることが大切である。パターンはあっても、それぞれの子どもに応じた支援について考えることができるよう、研修を実施することが必要ではないか。

#### ●委員

- ・全国的に ICT ツールの利用は広がっているが、内容が表面的であり、なかなか効果が出しにくい。基本的な知識を得ることは大切だが、ICT ツールだけに頼ると表層的な指導になり、非常に危険。子どもたちの症状の中にはいろいろな要素が関わっているので、それぞれの子どもに応じた指導ができるよう、計画的によく考えながら利用すればよい。

#### ●委員

- ・今、大学の夜間講座に来ている神戸市の教員は、すごく勉強熱心である。
- ・脳の使い方や子供の見方の幅を広げることなど、実際の事例を通した検討をしているので、1 年でも実力がついている。人材育成に向けた予算確保も大事である。

### ●委員長

- ・ICT ツールは、遠からず、AI を使うシステムへ移行していくだろう。書類作成の労力を減らすことができる利点はあるが、子どもを見立てる力や指導する力などは、AI や ICT を利用しても向上しない。逆に、AI や ICT を使っていくためには、子供を見立ててアセスメントする力や、実際に指導する力を身に付けていくところが基本になる。
- ・よって、AI・ICT ツールの効果的な活用と、担当教員のスキル向上の両方が必要になる。

### ●委員

- ・ICT ツールの活用により、多くの教員が通級指導を担当することができる点は良いところ。担当教員のスキル向上を図りながら、導入していくべき。

### ●委員

- ・ICT ツールの活用による評価をきちんとしてほしい。事前と事後において、子どもがどのようにかわったのかという評価をした上で、活用していくのが良い。
- ・教員・子ども・保護者が通級による指導の目的を理解し、ICT ツールの活用による評価をしながら、ICT ツールを活用すれば効果が上がる。

### ●委員

- ・教員の人材育成に向けて、発達について教員が学ぶ場をもう少し作らないと、実際の指導はなかなか難しいのではないか。

### ●委員

- ・神戸市の場合、すこやか保育ではたくさんの子供を抱えている。約 1,200 人がいる状態で、その子どもたちが、特別支援学級や通級指導教室に在籍する割合をかなり占めているはず。今年度から、保育園等では、発達支援保育リーダーを設置し、主幹教諭と一緒にアセスメントを行い、必要に応じて研修などをサポートしている。切れ目のない支援に向けて、教育委員会の仕組みとうまくつなげることが必要。

### ○事務局

- ・就学前の相談は、本年度は昨年度より約 100 件増えている。相談体制を強化し、少しずつシステムも変えているところ。
- ・早期における切れ目のない支援は非常に大事だとは考えている。現在、インクルーシブ教育相談員が 8 名おり、支援の必要な子どもの情報をうまく小学校につなげるよう、幼稚園等とのパイプ役として巡回している。
- ・今後、インクルーシブ教育相談員の動きをもう少し広げ、幅広く子どもたちを支えていくように、検討しているところ。

### ●委員長

- ・兵庫県の県立高校は、全国の中でも多くの学校で高校通級指導教室を設置しているが、神戸市立高校における通級指導教室の状況を教えていただきたい。

### ○事務局

- ・市立高校は、定時制3校、全日制5校の8校。高校で通級指導を受けている生徒は、12月1日現在で23名。担当教員は特別支援教育センターに常駐し、要望があれば、各学校の通級指導の時間に訪問している。

### ●委員長

- ・学習指導要領の改訂に向けて、文科省からいろいろな意見が発信されている。今後、通級指導教室で教科指導を進めていくという話が出ているが、そうなると、自立活動の指導の場である通級指導の枠組みが大きく変わる。そういう方向で進む可能性も高いのではないかなと考えているが、見通しやアイディアなどはあるか。

### ○事務局

- ・文科省での学習指導要領の改訂に向けて、大きな動きが出ている。  
通級指導教室での教科の指導というのは、小学校では想像できるが、中学校は教師が教科別でやっているので難しさがある。動向を少しずつ見ながら、対応を少しずつ考えていこうとしているところ。

### ○事務局

- ・本日は、委員の皆様から数多くの意見をいただいた。
- ・ICTツールの導入と合わせて、アセスメントする力や指導する力など、教員の人材育成が非常に重要であるというご意見をいただいた。現在も、自校通級指導教室や拠点校通級指導教室の担当教員に対する研修を数多く実施しているが、引き続き、人材育成の方法について検討していきたい。
- ・また、ICTツールの導入に際しては、ICTツールの活用方法と活用するために教員が身につけるべきスキルについて、最初の段階できちんと整理することが必要である。子どもへの効果的な支援に結び付けることができるよう、引き続き検討していく。
- ・本日は、たくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございました。